

1. マンホール追跡調査について

資料10

目的

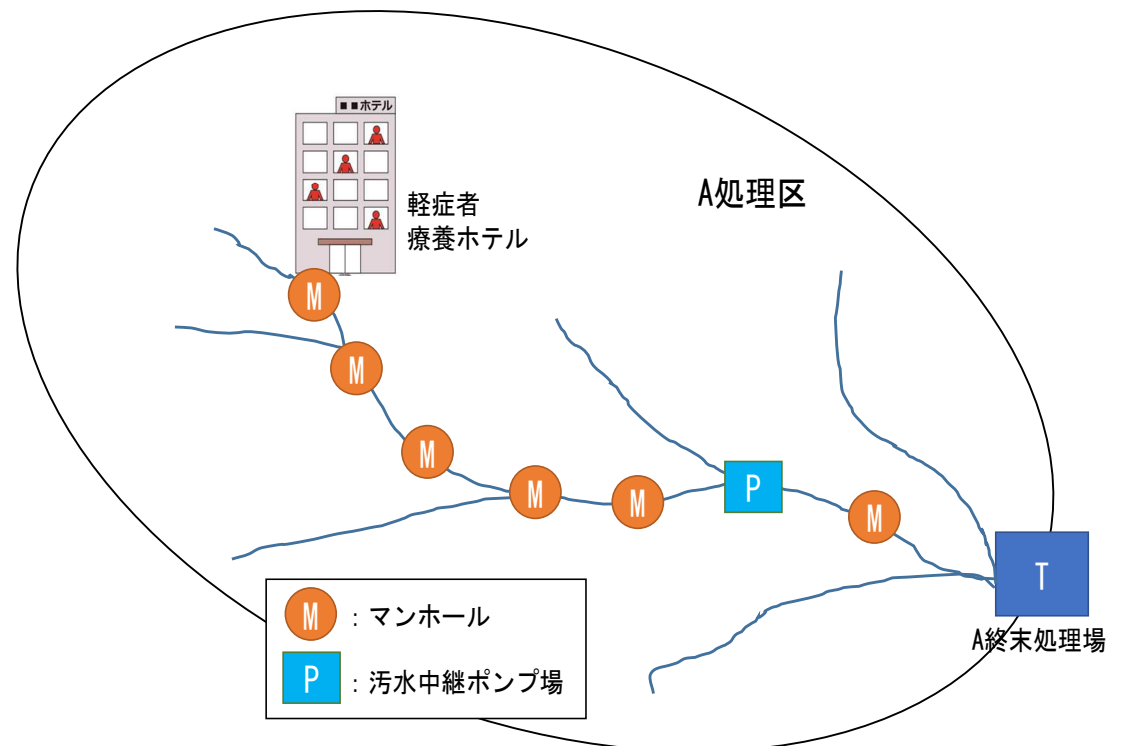
下水中の新型コロナウイルスRNA濃度の測定は、ヒト検査と異なり、膨大な数の検査を必要とせず、地域的な感染動向を把握できる可能性がある。

そこで、下水終末処理場からウイルスが検出された場合を想定し、流行地域をある程度絞るために処理区域内のマンホール等からの採水を行い、分析データの取得及び整理を行い、検知が可能であるか把握する。

●既知のエピセンター

：軽症者療養ホテル

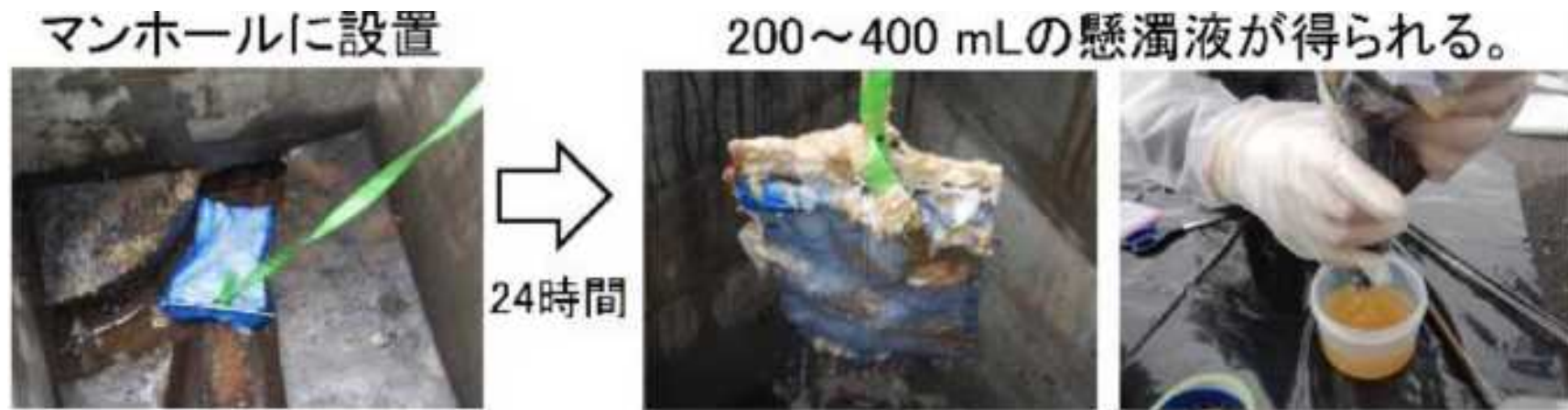
ここから下水処理場までのマンホールで追跡採水し、どこまでの流域面積（流量）であれば検知が可能であるかを把握する。



2. マンホール追跡調査方法

- 調査時期：8月末～9月初旬予定
- 調査方法：PoP-CoVサンプラーを用いた24時間採水（セット、翌日回収）
- 回収後、速やかに新型コロナウイルスRNA濃度の測定を行う。

< PoP-CoVサンプラーによる採水の様子 >



※PoP-CoVサンプラーは株式会社島津テクノロジー開発のパッシブサンプラーで、マンホール内の流れを損なわず、目的とする懸濁液の回収が可能である。
既に施設排水に対する測定実績がある。